

科学者たちは、どうすれば完全な体を得られるかを必死になって探求しています。中には、背が低く脂肪が多い方が良いという、私たちが想像もしないような結果にたどり着いた人たちもいます。彼らの研究によると、背が高い人より、低い人の方が寿命が長く、太っている人は様々な病気になりにくいそうです。では、神様にとって完全な体とは何でしょうか。

2017年最初の合同礼拝で、クリスチャンとしての未来の希望について新約聖書から学びました。新しい創造はキリストのもとに、創造、支配、統一されます。また、新しい創造は、私たちではなく、キリストが中心だということも学びました。これは私たちにとってどういう意味でしょうか。新しい天と地で、私たちはどのようになるのでしょうか。どのような人になり、どのような体や見た目、考え方になるのでしょうか。このような興味をそそる問いに、最もはっきりと答えているのは、1 コリント 15 章です。そこには、将来起こる復活の確実性と特徴と結果が記されています。

## 1. 復活の確実性

パウロがコリントの教会に手紙を書いたとき、死者の復活はないと信じる人が少なくとも何人かはいたようです。この考えがどういうものかはっきりとはわかりません。もしかしたら、死後は、肉体を持たない霊が、幽霊のように浮遊すると考えていたのかもしれませんが。詳しいことはわかりませんが、この箇所からわかるのは、「死者の復活はない」(12 節)と言っていた人がいたことです。

パウロはこの考えに真っ向から反対し、16-20 節で彼の理論を示しています。イエス様ご自身の復活が、死者のよみがえりがあることを証明しています。もし、死者がよみがえらないのなら、イエス様もよみがえらず、ご遺体はパレスチナのどこかの墓に眠っているはずですよ。そして、キリスト教は間違いで、私たちは嘘を信じた馬鹿な人だと思われるでしょう。死者がよみがえらないのなら、クリスチャンの希望について話すことは明らかに時間の無駄です。しかし、待ってください！イエス様は確かによみがえられました！パウロは 1 コリント 15 章のはじめ(4-8 節)に、この重要な真実を述べ、よみがえられたキリストが誰の前に姿を現されたかを記しています。イエス様はこの先駆的な御業により、死者の復活があることを証明されただけでなく、イエス様に従う人々がよみがえる道を整えてくださいました。パウロはキリストの復活を「眠った者の初穂」(20 節)と言っています。「初穂」は農業用語で、収穫の季節に最初に採れるものを指します。初穂は、歓喜をもたらしました。なぜなら、初穂は収穫がこれから続くしるしだからです。旧約聖書のレビ記では、「初穂」は、収穫の最初の一束で、すべての収穫が主のものであることのしるしとして、主に捧げられました。(レビ記 23:10-11,17,20) そして、それは捧げられたいのちを通して主に捧げられました。パウロがキリストの復活を「初穂」と表現したのは、神様がキリストをよみがえらされたように、私たちをもよみがえらせて、新しい体をくださることを説明するためです。キリストの復活は、神様に贖われた人々すべての復活を保証します。ですから、私たちには、新しい創造で、復活した体をもついのちをいただくという確かな希望があります。

## 2. 復活した体の特徴

では、私たちの新しい体はどんな体になるのでしょうか。「私たちの見た目は今と同じだろうか。復活した体は何歳か。赤ちゃんで亡くなった場合、復活したときの年齢はいくつか。もし大人として復活したら、その子供の親は気づくだろうか。」皆さんもこのようなことを考えたことがきっとあるでしょ

う。35-44 節のパウロの答えを見ると、がっかりするかもしれません。復活した体に関するパウロのコメントに、ある意味とても苛立たせられますよね。植物、動物、鳥、魚、太陽、月、星についての謎めいた記述だけです。これよりも、もっと詳しい説明がほしいと私たちの多くが思うでしょう。

しかしパウロは、今の体と復活後の体は全く異なる次元の話なので、そこまで詳しく知りたいと思うことは愚かだと言っています。私たちが知らなければならぬのは、私たちの新しい体が、新しい創造にふさわしいものだということです。栄光に満ちた、朽ちることのない、永遠の新しい地で、私たちには栄光に満ちた、朽ちることのない、永遠の体が与えられます。その新しい体は、新しい完全な世界にふさわしいものです。このこと自体がワクワクすることです。例えば、「朽ちることがない」という言葉を見ると、私たちの新しい体はおそらく衰えないのだろうと考えられます。素晴らしいことではありませんか。年を重ねるにつれて、私たちの体は思うように動かなくなってきました。落としたお金を拾おうと腰をかがめたり、買い物袋を持ち上げようとしただけで背中を痛めてしまったりします。また、関節炎による痛みがあったり、機敏に動けなくなったり、視力が衰えたり、物忘れが多くなったりもします。年と取ってこのような経験をすると、私たちは、よみがえって、朽ちない体をいただける新しい世界が待ち遠しくなります。

それと同じくらい、おそらく最も素晴らしいのは、私たち一人一人が、「御霊のからだ」(44 節)をもってよみがえることです。パウロが「御霊」という言葉を使ったのは、神様のご臨在の中で肉体から分離した霊が浮遊するというものではありません。もしそうなら、彼がこの章でこれまでに記したこと全てに矛盾します。むしろ「御霊のからだ」はおそらく、いのちを与える神様の御霊によって力を与えられた体を指します。今のように罪深い欲望に支配された体ではなく、神様の御霊に完全に支配された体です。その意味で、私たちはイエス様のようになります。だからパウロはこう続けています。「土で造られた者はみな、この土で造られた者に似ており、天からの者はみな、この天から出た者に似ているのです。私たちは土で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちを持つのです。」(48-49 節) ここで、この聖書箇所から、私たちは「天から出た者」に似るので、私たちの復活した体は、イエス様が復活後に弟子たちの前に見せられた姿のようになると思います。イエス様がなされたように、鍵のかかった部屋の中に入ることができたり(ヨハネ 20:19)、イエス様の復活後の御体に十字架の傷があったように、私たちが死因となった傷が復活した体にも残っているというのです。私はそれは違うと思います。というのは、イエス様のよみがえりは、明らかに亡くなられたままの御体で現れるというイエス様の特別な御業です。そうすることで、イエス様ご自身であることが誰にでもはっきりとわかるためでした。また、イエス様が死をも従える力をお持ちだということを示すためでした。

ですから、パウロが「天から出た者に似る」と言ったのは、イエス様の霊的な生き方についてだと考えられます。イエス様の体が罪ではなく御霊に従ったように、私たちも御霊に従う体をいただくということです。私たちを悩ませる内なる罪の欲望から解放されます。そして神様の御霊が、私たちの思考や欲望を真実で、気高く、正しく、きよく、愛にあふれ、称賛に値するもので満たしてください。創造してみてください。あなたの体はもはや、罪の性質による熱望の奴隷ではなくなるのです。そして、神様ご自身の御霊によって力づけられた体になります。これこそが、完全な体です！

### 3. 復活した体の結果

1 コリント 15 章を読むたびに、その長さに驚かされます。新約聖書の中でも最も長い章の一つで、1 章平均 31 節のほぼ倍の長さです。パウロがこの話題をこれだけ長く書こうと決めたことから、私たちの体の復活の大切さがわかります。それは、後に来る新しい創造にふさわしい体の概要を述べるだけでなく、また死者のよみがえりの確実性を弁護するためだけでもありません。私たちの復活でパウロが最も感激していることは、今のいのちの意味についてです。特に、私たちのいのちがもはや死に翻弄されないことです。50-57 節のパウロの興奮ぶりが聞こえてきますか。

ブラジルの土着の部族に遣わされた宣教師の話をしてしましょう。その部族に伝染病が流行り、多くの死者を出して、人口が激減していました。その宣教師は、彼らが生きる望みは、治療を受けるために近隣の病院まで歩いていくことだと決断しました。ただ、問題は、その病院に行く途中にある川を渡らなければならない、その部族が渡るのを拒否したことでした。彼らは、この川には悪霊がいて、川に入ると必ず死ぬと信じていました。宣教師は、それは真実ではないと時間をかけて説明しましたが、彼らは信じませんでした。宣教師は彼らを川岸まで連れて行き、川に手を入れましたが、彼らは入ろうとしません。そこで宣教師は川に入り、顔に水をかけました。それでも彼らは入ることを拒みました。ついに、宣教師は彼らに背を向けて、川に飛び込み、向こう岸まで潜って行きました。彼は水から上がると、拳を突き上げて、生きていたことを彼らに見せました。彼らは喜び、宣教師の言葉を信じて川を渡りました。

これは、イエス・キリストがその死と復活を通して私たちにしてくださったことをよく表しています。私たちは罪と死に支配された人生に捕らわれています。パウロは罪を「死のとげ」(56 節)と言っています。つまり、罪は私たちを死に追い込むのです。私たちが罪をおかすと、そのとげが刺さり、死が私たちを捕らえます。罪に対する当然の罰は死です。しかし、キリストは十字架での死によって、死のとげを抜いてくださいました。イエス・キリスト、私たちの完全な大祭司は、私たちの代わりに、ご自身を完全ないけにえとしてささげてくださいました。十字架上で、キリストは私たちが受けるべき死に自らを沈められました。しかし、ご自身の力を示し、キリストに従う人々にとって死は終わりではないことを明示するために、三日後に死から浮上されたのです。

数年前、私はジャーナリストのアンドリュー・デントンが有名な博物学者デービッド・アッテンボロー氏にした、死に関するおもしろいインタビューを聞きました。アッテンボロー氏は自然界のエキスパートである有名人で、人生でたくさんのもを手に入れたようにみえます。しかし、彼は毎日死について、死がいかに私たちの行動の全ての意味を奪うか考えていると言いました。「どうせ死ぬ(そして死後の世界はない)のに、なぜこれを買おうとかあれを買おうと思うのか。何の意味があるのだ。」といつも自問しているそうです。

しかし、1 コリント 15 章の使徒パウロの言葉は全く違います。それは勝利と目的にあふれています。死は私たちには終わりではありません。新しい創造、よみがえった体が待っています。だからこの人生での私たちの行動には意味があるのです。パウロは私たちにこう勧めます。「ですから、愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってもだでないことを知っているのですから。」(58 節) 映画「グラディエーター」でラッセル・クロウはローマ帝国北軍の将軍マキシマス・デシマス・メレディウスを演じました。映画の序盤に印象的でよく引用されるシーンがあるのですが、それは、蛮族との戦いの前に、マキシマスが部下の兵士を

鼓舞する場面です。大きな血みどろの戦いにこれから突入するといふときに、マキシマスは兵士たちに「同胞たちよ、この世での行いは永遠にこだまするのだ。」と言つて、勇敢に戦うように呼びかけます。

これは名言です。使徒パウロの1コリント15章最後のクライマックスの一文「自分たちの労苦は、主にあってむだではない」(58節)を言い換えたものともいえます。この意味の大きさを理解できますか。この興奮を感じることができますか。私たちが召された人生は、家(持ち家でも借家でも)と何人かの子どもをもつただの満足した消費者よりもはるかに素晴らしいものなのです。私たちは永遠にこだますることをするように召されています。この大きな真理は、私たちの現在の暮らしを、冒険へと変えることができます。あなたが誰であろうと、神様の子となり、神様の民の一員となつたら、あなたの生きる人生は、真の、永遠に続く影響を与えるものになるのです。私たちがおそらく想像もつかない方法で永遠にこだまする人生です。

日曜学校で教えるとき、英語クラスで聖書の時間をもつとき、地域の小学校でキリスト教のクラスを教えるとき、スキプトンのホリデープログラムをするとき、教会で人に信仰の励ましをするとき、国内外の宣教師の働きを物質、祈り、金銭でサポートするとき、友人や隣人にイエス様のことを話すとき、IYAや伝道の食事会に人を誘うとき—そのときはそう感じないかもしれませんが、これらは永遠に続く結果がありえる機会です。なぜなら、キリストが死に打ち勝たれたからです。この人生で終わりではありません。ですから、私たちが栄光に満ちた、朽ちることのない、御霊に従う人に変えられる瞬間のために、私たち自身が準備し、人が準備をするのを助けることは全く新しい意味を持ちます。

これこそが、キリストにある私たちの希望です！

アーメン

*Prepared by Rev. Grant Lawry, Canterbury Presbyterian Church, Canterbury, Melbourne, Australia for use of the Canterbury congregation.*